

投稿論文

ニュージーランドの多世代開放型家族システム

—三世代家族への参与観察調査から—

栗 山 直 子

追手門学院大学 経済学部

An open parenting of a three-generation family in New Zealand

Naoko KURIYAMA

Faculty of Economics, Otemon Gakuin University

Abstract : This research studies how the family system works in extended family in New Zealand. This family starts living together because of mothers mental anxiety and her abusive attitude to her children. Ethical considerations: Explanations regarding the purpose of the study, a usage of results and privacy protection as well as acquisitions of permissions for taking memos and data publications were conducted prior to this family as ethical considerations. Especially, data of actual cases has been processed additionally to prevent an identification of the family members. There have been supportive moves to be free from such modern family ideology and a life style of a family has been diversified. Especially, family member networks have proved effective, drawing attentions from the society, and a child care by grandparents and assistive moves for it have been facilitated in regions.

1. はじめに 一世代間の関係性の中で育つということー

ニュージーランドは先進国の中でもいち早く多文化主義を取り入れた国として知られている。多文化とは広辞苑に「一つの国・社会に複数の民族・人種などが存在するとき、それらの異なった文化の共存を積極的に認めようとする立場」(広辞苑, p1825)とあるように、個々の文化のありかたは多様であり、その多様性が共存することを善しとする考え方のことである。

ニュージーランドでは多文化主義の中でキンシップネットワークが重視されている。NZでは祖父母などの親族ネットワークは子どもにとっての財産であり、親族ネットワークのなかで文化的背景を尊重されながら世代間のつながりを重視した子育てが重要と考えられている。子どものウェルビーイングにおけるキンシップ重視の考え方はNZ独自のものであり、「子どもが安全であるかは子どもが文化的にも安全であるかということを前提にする。それは子どもの文化的枠組みが確保されているか、キンシップネットワークとつながっているか」(資生堂社会福祉事業財団報告, 2009)まで含めてウェルビーイングをとらえている。つまり、家族にはそれぞれのファミリー/キンシップアイデンティティがあり、そのアイデンティティを度外視して、標準的で一般的な価値観を子どもに押しつけることは重大な人権侵害にも相当すると考えられている。

2. ニュージーランドにおける児童保護

1980年に先住民マオリ族とイギリスとの間で権利に関する条約である「ワイタング条約」が締結される。マオリ

の復権運動が進む中で、政府がマオリ文化を知らないにもかかわらず、一方的に子どもを家族・親族から引き離し、白人文化に基づいた意味での「保護」されることは、子どもの人権を侵害する行為であり、ワイタング条約に反していることが社会的に問題視されるようになった。当時は行政や施設職員も里親も白人が圧倒的大多数であり、保護されるマオリの子どもや家族の文化的背景への理解はまったく十分とはいえなかった。マオリ文化では、大家族で子育てし、家族同士支え合うということが前提の文化である。家族内では、親族会議をもつことから食事の順番に至るまで、細かく部族内のルールが存在しており、白人の理解の及ぶ範囲ではなかった。ただ子どもを家族から引き離すことをもって問題の解決とすることが横行していた安直な児童保護のやりかたに批判が集まった。また政府の財政難も影響し、施設主義の抜本的な見直しとマオリ文化からのキンシップネットワークでの子育てが幕を開けることとなる。それでは、実際に三世代で暮らす Kiwi（白人ニュージーランド）家族の子育てがどのように行われているのか、NZ の都市部に在住の娘一家と同居する祖父母の生活からその一端をみてみよう。

3. 調査の方法

1) 調査期間

2016 年 11 月 19 日 – 2016 年 11 月 28 日の 10 日間。

2) 調査の方法

NZ 都市部に在住の三世代同居 Kiwi 家庭への住み込み参与観察法調査。調査協力者（当該家庭の遠縁の親戚）にはあらかじめ観察をポイントにしぼって記録してもらうため、10 日間分の記録用フォーマットを渡し、そこに記入するよう指示した。

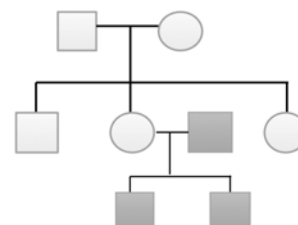
3) 倫理的配慮

本調査の倫理的な配慮としては、調査協力者自身の親族に住み込み調査の依頼をした。なぜならば本調査は長期間住み込みを必要とするため、見知らぬ調査者が家庭内に入り込むことは当該家族にとって大きなストレスとなりかねない。そのため、本調査計画段階から参画し、調査趣旨を充分理解している調査協力者の遠縁親族に依頼した。調査実施前に対象の家庭に対して研究代表者より調査協力に先立ち、入念な説明と記録用フォーマット 10 日間分を渡し、毎日同じタイミング（食事の準備などの家事、食事の前後、入浴、おむつ交換、就寝前のケア、家族メンバーの外出時間と帰宅時刻など）ポイントを記録するように細かく指示だしを行った。また調査対象家庭にも研究代表者はあらかじめ出会う①研究の趣旨の説明、②結果の利用についての説明、③プライバシー保護についての説明、④メモの許可、⑤データを公表の了解などの許可を得た。また個人の特定を防ぐため、調査協力者の氏名はふせ、事例の詳細部分、登場人物は仮名するなど加工を加えている。なお、本インタビュー調査、および分析にあたっては日本社会福祉学会の倫理綱領を遵守している。

4. 調査の内容

1) 調査対象家族について

・家族構成：祖父パート就労（61）、祖母パート就労（65）、長女ブレンダ・無職・ときどきアルバイト（30）、ブレンダの夫サム・検査技師（37）、孫〔長男トム 3 歳、次男 2 歳〕



2) 同居の背景：長女ブレンダの問題行動

①ブレンダの精神不安

同居して孫を養育することになった契機は、長女ブレンダ（30）の精神不安定による養育困難である。ブレン

ダは感情障害、躁鬱病などを発症している。ブレンダは弟の結婚式などのイベントや、子どものイベントなど自分以外の人間に視線が集まるイベントがあると、前日くらいからとたんに精神不安定になり、だれも私をわかってくれないと大声でわめいたり、キッチンでリストカットやレッグカットをして他人の視線を自分の方に集めようとする。

②金銭管理能力のなさ

ブレンダは金銭管理能力がなく、躁状態のときや子育て支援金などの補助金が入ると、インターネットショッピングで自分の服などを購入しその日のうちに全額使い切ってしまう。かつてはカードによる借金が膨らみ、返済能力がないにもかかわらず、限度額まで使い切り、何枚もカードを有していたが、支払いできずカードは没収された。金銭管理能力がなく、日々の生活に行き詰まったため、同居してからは祖父母が金銭管理している。

③夫サムへの暴力

同居前にはサムとブレンダの夫婦仲が悪化し、夫は夜中にトイレに行ったことで子どもたちが起きたためブレンダから殴打され、顔に青あざができた。夜中に二度とトイレに行かないように言われ、ペットボトルで排尿をするようにいわれた。それでもトイレに行ったときには朝までトイレに閉じ込められた。ブレンダが突然キレて、夜中にサムが寝ていたら蹴り起こされることがあった。ある日、ブレンダは食後ワインボトルをもって寝室に閉じこもっていた。子ども達が遊んでいると「私の眠りを妨げるな」とボトルを振り回して暴れ出したため、サムが子ども達を車にのせて近所を行ったり来たりしてブレンダが寝静まるのを待った。ブレンダは酒癖が悪く、補助金などお金が入るとバーにも出かけ、バーの客と手当たり次第に関係を持つことがあった。ブレンダからの度重なる暴力、モラルハラスメントが行われ、サムは心身共に疲労し、日中の検査技師の仕事にも支障をきたすようになった。

④ブレンダの周囲との関係性の築けなさと承認欲求の高さ

友達のプレイグループの誕生パーティに行ったときにママ友に言われたことにかんしゃくを起こし、自分より裕福なママ友を嫉んだり、ママ友に対しての悪口をツイートするなど攻撃的になった。ママ友とのつきあいがブレンダの精神不安を悪化させる一因ともなり、ママ友たちとのフラットな関係作りができない。一方で、ブレンダはフェイスブック上でのつきあいは好んで行っている。彼女は周囲から承認欲求を得るために、フェイスブックで「良い母アピール」を発信し続けている。例えば、「あなたたちの母親でいられることが私の幸せ」、「かわいい私のおちびちゃん」などのコメントを添え、日常の幸せそうにみえる家族写真や子どもの写真を投稿する。義父母に対しても「あなたのかわいい孫。私はこんなに頑張って育児している」などの肯定的な投稿をしている。「今日はビーチに行った」「みんなでキャンプをしている」という投稿があるが、実際はその場にブレンダはおらず、ビーチやキャンプに連れて行っているのは祖父母だった。ブレンダは祖母からラインで送られてきた写真をあたかも自分がその場にいて撮影しているかのようにフェイスブックに投稿した。

⑤子ども達への心理的虐待

ブレンダは鬱状態になるとひきこもりがちとなり、子どもを散歩などで外に連れ出したりするはなかった。子ども達は幼児であるため、ブレンダが引きこもり始めるとほかの大人がいない限り、一日中家の中で過ごすことになる。ブレンダは子どもの前でもヒステリーを押さえられず、暴言によって子ども達を罵倒することもあった(心理的虐待)。母親からのヒステリー、暴言によって、トム(3歳)はしだいに情緒不安定になり、保育所で嫌なことがあると大声を出したり、暴れたり、ほかの子どもからおもちゃを取り上げて壁に投げつけたり、問題行動を起こすようになった。またトムにところかまわず性器を触る行動が現れ始めた。保育所でも問題視され、迎えに行った祖母が保育士から家庭の事情を聞かれた。トムにはチック症も生じ始め、ブレンダの心理的虐待から子ども達への精神的な悪影響が生じていることが懸念されはじめた。

3)同居以前の祖父母からのサポート

同居前から祖母は週に3,4回はブレンダ宅を訪問し、子育ての手伝い、買い物の送り迎え、埃取りや拭き掃除などの家事の手伝いをしていたほか、週末は祖母が泊まりに来て1人の子どもの面倒を見、もう片方の子どもは夫か、義母が世話をしていた。時には両方の子どもを夫か夫の母親が世話をし、ブレンダが泊りがけで実家に来るか、子どもを両親それぞれの親が一人ずつ預かり、その間両親は育児休みをすることもあり、祖父母は週末の

どちらか、または両日を育児に充てていた。祖父は月曜から木曜までの仕事のため、金曜日は家事か、孫を預かるか娘夫婦の家に訪問して育児をしてきていた。

4) 同居開始

①同居のきっかけ

ブレンダとサムの家は地震で一部損壊し、その補修工事に伴い、家を出る必要が生じたことが同居の直接のきっかけとなった。賃貸費用の補助もあったが、ブレンダには周囲への強い不安感など、精神的に不安定な状態にあり、子育てを助けてもらう必要があり、祖父母宅に居候することになった。当初は数週間の予定であったが、すでに3ヶ月を超えて同居している。ブレンダの両親の持家（住宅ローンなし）にてブレンダとサム、子ども2人（長男トム3歳、次男2歳）が居候する形で同居中。

②同居の概要

住まい：祖父母持ち家（住宅ローンなし）、建物は2階建て一軒家3ベッドルーム、キッチン、風呂、トイレ、洗濯場は共有。

家屋について：自宅は2階建て一軒家3ベッドルームで、キッチン、風呂、トイレ、洗濯場は共有している。

・金銭的状况：光熱費や食費として、週に120ドル祖父母に支払っている。ニュージーランドで家を賃貸する場合、週平均は450ドルほど、家族4人暮らしに必要な3ベッドルーム以上になると500ドルを超えることもある。食費は4人家族で大体週150ドルから200ドル払っていたとのことで、同居中は節約できている。また、同居中の光熱費は月に大体170ドルほどで冬でないことから、暖房費がいらず、最近は安くなっている。冬場は毎日、暖房用のパレット代7ドルが加算され300ドルを超えていた。家族の在住する市は水道代は無料。祖父母宅は調理にガスを使用しており、1か月に30ドル分ほど補てんしている。

・家事分担：同居にあたって、家事はそのときできる人が行っており、特に誰がなにを担当するというルールはない。

5. 調査結果

2016年11月19日－2016年11月28日の10日間の住み込み参与観察調査を対象の一家庭に対して行った。調査はKiwiの三世代家族で実際の家事や子育てがどのように行われているのかを中心に観察を行った。

・1日目（11月19日土曜日）

9時ごろ次男昼寝。ブレンダが寝かしつける。

11時頃から長男昼寝。サムが寝かしつける。

昼食は各自でオープンサンドウィッチや蒸し芋、クラッカーなど。昼寝後、子ども達は両親が購入したベビーフード。祖母が見守りする。昼食後はリビングエリア、サンルームエリアで寛ぐ。洗濯の取り込みとたたみ分けは祖父が担当。

4時半過ぎ、祖母が夕食の支度をする。

子どもの食事介助は祖母が長男を、ブレンダは次男をと分担して行う。

子どもの入浴は祖母と祖父が付き添って見守り、祖母が子どもにクリームを塗布しパジャマへの着替えをさせる。ブレンダはインターネットで買い物をしている。サムはパジャマの準備などをしたあと、祖父母がするのを見ている。

7時頃子どもの寝かせつけはサムが長男、祖母が次男を担当。それぞれボトルを与え、それぞれのコット（寝床）に寝かしつける。長男の方は45分程寝かしつけに要していた。次男には30分弱かかった。その後、大人は夕食。ブレンダが夕食の片づけをし、サムとブレンダと祖父母は飲酒をはじめた。リビングでそれぞれ過ごした後、10時過ぎにそれぞれ就寝。

・2日目（11月20日日曜日）

この日長男は夜中に2回ほど夜泣き。次男は2－3時間おきに起きたため、サムとブレンダが交代で世話をした。夜中用のボトルミルクは、長男分はベッドに入る際の飲み残しを冷蔵庫で保管、次男分はトドラー用ミルクを作り置きをし、冷蔵庫に保管、必要時にレンジを使って温めた。

次男は朝6時前に起床し、サムがおむつを替え、ボトルを与えている。

長男は7時過ぎに起床。祖父がベジマイトトーストを作り、サムを与えている。祖父は祖母の朝食の用意をし、寝室のある2階で朝食。ブレンダは起床後、シャワーを浴び、その後、サムもシャワー浴をする。その間にブレンダが子どもの着替え。子どもはDVDを見ている。祖母が起きてきて、家族全員揃う。洗濯は祖父が行う。ブレンダとサムは買い物に出かけるため、祖父と祖母が子ども達を祖母方の両親、子どもからみて曾祖母の家（同市内）に連れて行く。観察者も同行し、曾祖母と祖父母、子ども達の様子を観察する。次男は移動の車内で昼寝したので、到着したら寝起きで機嫌が悪く、車から降りないなどグズる様子。家のなかから曾祖母が出てきて次男を呼び、「なかにクッキーがあるからおいで」といって車から連れ出す。孫を囲んでお茶を飲み、曾祖父の病気の話、娘の話などをしながら2時間ほど過ごす。

帰宅後、昼食：祖父母がチーズ、バナナ、ピーナツバターのクラッカーのせを作り、子ども達に与える。

長男の昼寝：祖母が寝かしつける。その間、祖父が次男の相手をする。おもちゃを使って遊ぶ。

1時間半ほどで長男が起きてきて、祖母がおむつを替える。以前、預かっていた際におむつを頻繁を替えすぎる、おむつは高いからあまり替えないようにとブレンダから文句があり、日中は一回か大便がでないときは朝から夕刻のお風呂まで変えないこともあるとのこと。

2時頃、ブレンダとサムが帰宅。

全員でサンルームにてアフタヌーンティータイム。

夕食準備は祖母が子ども達も食べられるようにコッテージパイを作る。

祖父が洗濯物の取り入れをする。

子の夕食はサムが長男を、祖父が次男を食事介助をする。デザートは市販ベビーフードのバナナカスタード。ブレンダはソファでみんなと話している。

子の入浴は祖父が担当。ブレンダと祖母はワインを飲んでいる。

入浴後のケアはクリームと着替えをサムが担当。ブレンダがスワドリング（スワドリングとはガーゼできつめに幼児の身体を巻くことで寝入りやすくさせるとされ、ニュージーランド・オーストラリアでは伝統的な風習）をする。

歯磨きはサムが行う。

子どもの寝かしつけ：長男には祖母が絵本を読み、長男は自分でボトルを持ちミルクを飲む。次男にはサムがボトルでトドラー用ミルクを与える。

8時頃大人たちの夕食

夕食の片づけは祖父が行う。

・3日目（11月21日月曜日）

夜中の育児は前日と同様で、子どもが起きるたびに、交互に世話をする。次男が生まれてすぐのころは、すべてサムが担っており、徹夜で出勤することもあったとのこと。昨夜は次男が3回目を覚まし、5時ごろから両親のベッドで添い寝をしていた。

サムが6時過ぎに起き、次男にミルクを与え、ベッドのブレンダに次男を渡し、シャワー、朝食を済ませ、7時過ぎに仕事に出かける。弁当のサンドウィッチは前日に祖母が準備。

ほぼ同時刻、祖父が祖母の朝食準備をし、6時過ぎ祖母が朝食を取り、6時半過ぎに出勤。祖母を見送った祖父が洗濯機を回し始め、同時に長男とブレンダの朝食準備。起きてきたブレンダが朝食を摂りながら長男にトーストを与え、その間、祖父が次男の面倒を見ている。長男に続いて、次男にトーストを食べさせる。

祖父も仕事着に着替え、洗濯を干し、朝食の皿洗いをし、8時半すぎに出勤。

9時頃観察者に子どもと一緒に遊ぶように頼み、その間にブレンダはシャワーを浴びる。

10時頃、2回目の洗濯物をブレンダが干す。

11時半頃、ブレンダが子どもにチーズベジマイトサンドイッチを作り食べさせる。

12時過ぎ次男をラップし、トドラー用ミルクを与え寝かしつける。その間、長男は観察者と遊ぶ。

次男がベッドに入った後、長男も自分でボトルに入れたノーマルミルクを飲み、その後、昼寝する。長男は普段、ミルクを飲んだあとコットにいれると自分で寝入った。

15 時過ぎ、祖母が帰宅。お茶を一杯飲んだ後、長男をプラムに乗せ、近所へ散歩に出かける。

16 時半過ぎ、夕食の支度は祖母が行う。

庭木の水やり、洗濯の取り込みは祖母が行う。

洗濯のたたみ分けはブレンダが行う。

17 時過ぎサムが帰宅、子どもの夕食（両親が購入していた缶詰とバナナカスタード）祖母は缶詰のベビーフードを子どもにあげることを良く思っていないが、以前に、それをブレンダに伝えて怒らせたことがあるため、今は言わないようにしている。

祖母が子どもの入浴見守りをする。

子どものクリームと着替えはブレンダとサムが手分けして行う。

祖母が子どもの歯磨きを指導。

19 時頃、子どもの寝かせつけ：長男はサム、次男はブレンダが行う。

20 時前 大人たちの夕食

21 時頃祖父が帰宅、祖父と、祖母、ブレンダはテレビを見ながらワインを飲む

夕食の片づけはサムが行う。

・4 日目（11 月 22 日火曜日）

今日から祖母の仕事のシフトが午後 3 時からになり、日中は祖母とブレンダが家にいる。

6 時過ぎ、サムが起床し、シャワーを浴びる。7 時前、次男が起床。ミルクをあげたところでサムは出勤。出勤に合わせてブレンダが起床し、次男の着替えとおむつ替え、朝食を準備し、食べさせていたところに、長男が起床してくる。7 時頃起床した祖父が次男の朝食を手伝い、ブレンダが長男の着替えとおむつ替えをする。そのまま、長男も朝食を摂る。

8 時半過ぎ、祖父が出勤し、9 時前より祖母が起床し、祖母が朝食を摂りながら子ども達をみている。子ども達はおもちゃで遊んだり、家じゅうを走り回っている。

ブレンダに続いて祖母がシャワーを浴びる。その後、祖母の運転で、ブレンダと長男と次男を地域の医院へ連れて行く。ブレンダの精神安定薬のリピート処方してもらう。その後、医院と家の間にある祖母の姉妹宅を訪問し、子ども達を見せに寄ったり、セカンドハンドショップに寄って帰宅。子ども達は移動中の車内で昼寝をしている。また、姉妹宅で、子ども達はおむつ替えを済ませている。

帰宅後、4 人とも遅めの昼食。13 時半過ぎ。ピーナツバター、きゅうりのライスクラッカーのせと、バナナ、ミカンを祖母が作り食べさせる。身支度を整え、14：30 祖母がパートに出勤する。ブレンダは 15 時過ぎに家族全員の洗濯物を取り込む。

ブレンダだけになると、じっとしていられず何度も夫、祖母の職場に電話をしたり、メッセージを送っている。ネットニュースで知ったこと、子ども達が何を食べた、食べなかったなど細かな内容を電話で伝えているが祖母、サムとも電話に出ないと帰ってからブレンダに問い詰められ口論になるため職場でも電話には応答している。17 時過ぎサムが帰宅。

夕食準備はブレンダが行った。メニューはマッシュポテトとソーセージ。

子どもにも同じものを与える。先に次男が食べ、続いて長男。両親もそれぞれでプレートを持ち、長男に食べさせながら、夕食を済ませる。サムが子どもたちに入浴をさせ、ブレンダが入浴後のケアを行う。夕食の片づけはサムが行う。サムが 19 時半頃に子どもたちを寝かしつける。この日は子ども達はスムーズに寝入り、絵本一冊読むころには長男は眠り、次男も 10 分もかからなかった。

子どもが寝た後、ブレンダは祖母に子どもたちが寝たという電話をいれ、夫婦はテレビを見ている。

21 時祖父が帰宅。シャワーを浴びる。

21：30 祖母が帰宅、外で食事をしてきたようで、すぐに就寝。

・5 日目（11 月 23 日水曜日）

6 時過ぎサムが起床。次男が 4 時ごろからぐずっていたとのことで寝不足の様子。次男のおむつを替え、ミルクをあげた後、ブレンダを起こし、サムはシャワーを浴びる。

7 時過ぎ祖父が起床。洗濯を始める。トーストを食べながら、新聞を読んだり、メールチェックをする。

7時半長男が起床し、祖母も起床し、お茶を飲み、シャワーを浴びる。シャワー後、祖母が朝食を用意し長男と一緒に摂る。

8時半祖父が出勤後、祖母が洗濯物を干す。

9時ブレンダが入浴。祖母が子ども達を庭で遊ばせる。キッチンツールを使ってウォータープレイをする。10時モーニングティーを摂る。子どもも果物のスライスを食べる。

その後、祖母が長男を連れてビーチに散歩に出かける。次男はブレンダと一緒にDVDを見ている。11時半頃祖母と長男が帰宅、ランチにスチームドポテトを作り、子ども達と一緒に食べる。食事をしたあと、子ども達はベッドに。子ども達に祖母がサンルームで本を読んであげる。何度も同じ本を繰り返し読むよう長男がせがみ、4、5回、同じ本を読んだ後、昼寝に行く。祖母が朝ごはんと昼食の皿を洗う。

ブレンダは自分達のベッドルームで荷物の整理をしたり、インターネットショッピングをしている。自動車運転免許を持たないため、子どもの洋服や時には日用品もインターネットで購入し、宅配サービスを利用している。ブレンダはカードを持たないため、祖母の許可を得て祖母が決済する。

1時間弱で子ども達が起きてくる。ブレンダと祖母がそれぞれ子どものおむつを替える。

14:30 祖母が出勤。

祖母が出勤してすぐ、夫に「早く帰ってくるように。」とラインや電話を何度もしている。普段はブレンダは一人で子ども2人の世話をすることに不安を感じており、夫が仕事を早退したり、祖父母が、病欠を使ったりして、カバーすることもある。祖父母、サムともに病欠は使い切っており、また、有給も残っていないので、休む際は無休休暇となる。次男妊娠中から、抗うつ薬などトランキライザーを服用しており、幾分改善したが、ひとりではいまだに不安を感じているとのこと。

15時半過ぎサムが早退して帰宅。

夕食はブレンダの得意のパスタ料理。サムが料理ができないため、料理は基本的にブレンダが作り、その他の家事をサムがすることが多い。

6時頃子どもに缶詰のボロネーゼをだし、両親もブレンダが作ったパスタを食べる。

ブレンダがお風呂をため、サムが子どもの入浴の見守りする。

入浴後のケアはブレンダとサムが一緒に行く。祖母が出勤してからずっとテレビがついており、ブレンダはながらにテレビを観ている。

夕食の片づけは観察者が行う。

7時頃から、子どもの寝かしつけ。長男はサムが本を読み聞かせながら、ミルクを飲んでいる。次男はリビングでブレンダがテレビを観ながらミルクを与え、あやしている。寝た後、次男もコット（寝床）に行く。

子どもが休んだ後、テレビとインターネットを見ながらゆっくりしている。ブレンダはもともとインドア派で外出が好きではなく、反対にサムはアウトドアが好きで、いつか子ども達をキャンプに連れて行きたいそうだが、ブレンダは一緒に行きたくないと言い、サムはボーイズキャンプでいいから連れて行きたいと言う会話をしている。

21時過ぎ祖父が帰宅。お茶を入れ、パジャマに着替え、しばらくブレンダとサムは話をする。21時半祖母が帰宅。お茶を入れ、しばらく二人の会話に加わったが、22時すぎには寝室へ。祖父は一人でテレビを観ている。

・6日目（11月24日木曜日）

6時過ぎサムが起床。シャワーを浴びる。朝食はなし。朝食は子ども次第で摂ったり、摂らなかったりとのこと。

7時祖父がシャワーを浴び、洗濯にとりかかる。子ども達が二人とも起きてきたため、ブレンダも起床する。おむつを替え、ミルクボトルを子ども達に渡し、子ども達はテレビを観ながら飲んでいる。7時半、サムが出勤。

8時前、祖父が祖母の朝食を運び、2階で一緒に朝食を摂る。

8時半過ぎ、祖父が出勤し、祖母も降りてくる。

9時過ぎ、ブレンダが入浴。子どもたちは祖母がおもちゃで遊ばせている。

11時頃、ぐずり始めた次男をプラムに寄せ、祖母が散歩に連れていく。

パソコンを見ていたブレンダがファミリータックスクレジットの入金を確認し、ブレンダは自分の収入のようだと喜んでいる。ファミリータックスクレジットは週ごとに、支払われている。現在はサムの収入と時折、連絡があっ

た際にブレンダがカジュアルベースで働いており、前週の収入によって、支払われる額は増減する。また、次男が生まれたあとから、コミュニティカードという低所得者向けに発行されるカードを取得しており、地域の医療機関（GP）の受診料、処方薬、公共機関の利用料などの減額サービスを受けている。

30分ほど近所のブロックを散歩させたあと祖母が帰宅し、買ってきたホットチップスを昼食にする。

昼食後、次男が昼寝をする。長男は昼寝をする様子がなく、祖母は心配しているがブレンダが昼寝をしないで様子を見てみると言う。長男はロッキングチェアに座り、楽しそうに漕いでいる。その後も長男はぐずる様子もなく、いつもよりもハイテンションで遊んでいるため、疲れるのを待つことに。ブレンダが長男のおむつを替える（大便のため）。

1時間半ほどで次男が起きてきた。祖母がしばらく抱っこをしている。

祖母と、ブレンダはアフタヌーンティーを摂る。子ども達にもラスクをあげている。

14:30 祖母が出勤。

ブレンダが子ども達に、コーディアル（凝縮した花やハーブティを水で薄めたもの）を飲ませる。子ども達は二人とも気に入ったようで、しばらく飲んでいいる。観察者も子ども達と追いかけてこや、おもちゃのキッチンセットでおままごとなどをして遊び、ブレンダはインターネットをしている。

17時サムが帰宅、ブレンダが洗濯物を取り入れ、夕食の支度に取り掛かる。その間、サムが子ども達の世話をしている。

子どもの夕食は冷凍のフィッシュフィンガーとカリフラワーを茹でたもの。疲れすぎのためか、長男はあまり食べないため、両親に叱られている。

両親は、チキンドラムスティックのオープン焼きにマッシュポテトとカリフラワー、ワイン。18時半過ぎ、サムが子ども達をお風呂に入れ、ブレンダが入浴後のケアをしている。

19時過ぎ、子どもを寝かしつける。

両親ともにテレビを観ながらブレンダはワイン、サムはバーボンを飲んでいる。

21時過ぎ祖父が帰宅し、飲酒しはじめる。インターネットをしたり、テレビを観たりしている。21:30 祖母が帰宅。祖母も一緒に飲酒。

・7日目（11月25日金曜日）

6時過ぎ、サムが起床し、シャワーを浴びる。子ども達は比較的良好に寝たとのこと。深夜1時過ぎに一度次男が起きただけだった。

今日は、祖父の仕事が休み。7時頃起きてきて、メールのチェックをしたり、洗濯をしかけ、自分の朝食を食べた後、8時過ぎに祖母の朝食を作り、2階に運ぶ。

ブレンダ、長男、次男ともにサムが出勤したあと7時半過ぎに起床する。子どもの着替え、おむつ替え、朝食はブレンダが行う。

祖父が洗濯を干している。

9時過ぎ、祖父が1週間分の食料と日用生活品を購入するためにスーパーマーケットに出かける。2時間ほどで帰宅。今週のコストは200ドルほどで、同居しているブレンダ夫婦分の食料も含まれる。次男用のフォーミュラとおむつ、ベビーフードはブレンダ夫婦購入。

9時半頃、祖母がシャワー、続いてブレンダも入浴。今日は30分以上浸かっていた。祖母がシャワー後、子ども達が遊ぶのを見守る。

11時頃、祖父が帰宅。買ってきたパンで皆昼食を摂る。

11時半頃次男昼寝。ブレンダと祖母は祖父が買ってきた食料品でフルーツミックスを作る。

12時前、祖父が長男のおむつ替えをして、12時半頃から長男が昼寝。14時半、祖母が出勤する。15時ごろから観察者が夕食を作る。

金曜日は隔週で祖父母の友人が夕食に来るとのことだが、今週はない。

17時過ぎ、帰宅したサムが子ども達の入浴を手伝う。入浴後のケアはブレンダ。祖父が洗濯物の取り込み、たたんで仕分ける。

子どもの夕食はベビーフードのパスタとパン。

19時過ぎ、サムが長男を寝かしつけるがなかなか寝ず、1時間ほど、本を読んだり、あやしたりしている。その間、大人はサンルームで音楽を聴きながらお酒を飲んでいる。次男も寝ずに一緒にいる。サムを除いた大人たちが夕食を摂る。

20時を過ぎてブレンダが次男をスワドリングし、寝かしつける。21時半、祖母が帰宅し、飲酒に合流。夕食の片づけはサムと祖父が行う。大人の就寝は夜中1時をまわっていた。

・8日目（11月26日土曜日）

7時過ぎ、子どもたちと両親が起床。それぞれ、一人ずつおむつ替えと着替えをする。長男、次男ともに朝まで寝たそう。次男は5時過ぎから両親のベッドで寝ていた。

ブレンダが子ども達と夫婦の朝食の準備をして、食べている。子ども達はインスタントポリッジを食べる。

8時過ぎ、祖父がシャワーを浴びる。

その後、祖父が祖母の朝食を作り、祖母が朝食を済ませ、9時前に1階へ降りてくる。そのまま祖母はシャワーを浴びる。

9時過ぎ、子ども達とブレンダ、祖母で、近所のマーケットに散歩に出かける。カフェにも立ち寄り、ミルクフラッフィを飲んだ。カフェ代はブレンダが祖母の分も支払ったとのこと。

お昼過ぎ、サムのブレンダ、子どもにとっての父方の祖母が来て、長男を迎えにきた。1泊、別の祖母宅にお泊りをする。長男、次男ともに月に2泊ずつしている。出かけるなど用事がある場合は、さらにエクストラで泊まりで預かってくれる。父方の祖父は長男誕生前に亡くなっているが、サムの妹とその婚約者が同居している。父方の祖母はヘアサロンを営んでおり、スタッフの都合で休みが変更になることもあるが、基本的には週末が休み。定期的に子ども達のヘアカットもしている。

昼寝：お昼過ぎ、長男が出てからサムが次男を寝かしつける。

祖父母は昼食を摂り、ゆっくりしている。

14時半、祖母が仕事に出かける。今日のシフトは15時から23時。

誰ともなく、遊ぶ次男をみている。

洗濯の取り込みは祖父が行う。

サムは家の掃除道具を買いに出かける。

ブレンダが夕食の調理をする。

17時頃、次男の食事はブレンダが食べさせる。

次男の入浴は祖父が行う。

入浴後のケア、次男のスワドリングはブレンダが行ない、そのまま18時半ごろから次男の寝かしつける。

19時頃サムが帰宅し、大人たちが夕食を摂る。それぞれが好き好きな場所で摂っている。

夕食後はテレビを見たり、インターネットをみたり、ワインを飲みながらそれぞれのことをしている。

夕食の片づけは祖父が担当。

23：30 祖母が帰宅、疲れていたためそのまま就寝。

・9日目（11月27日日曜日）

7時前次男が起床し、両親も起床する。夜は数回ぐずったが、朝まで寝てくれたとのこと。サムがおむつ替えと着替えをし、ブレンダが朝食の支度をする。朝食はベジマイトトースト。

テレビを見ながらゆっくりしている。

8時過ぎ、サムがシャワーを浴びる。続いて、ブレンダもシャワーを浴びる。

9時前、祖父母が起床。祖父が祖母の朝食の準備をして、朝食を摂り、その後祖母はシャワーを浴びる。

9時半過ぎ、両親と次男で長男を迎えに行き、父方祖母宅でランチを摂る。父方の子どものいとこ2歳もおり、一緒に遊んだとのこと。

祖父が家じゅうに掃除機をかけ、祖母がダスティングをする。

掃除後、祖母は仕事前にと2階のベッドで横になりに行く。

14時、祖父母遅めのランチを摂る。

14時半、祖母が仕事に出かける。今日のシフトも15時から23時。

夕方4時頃、両親と子どもが帰宅。

17時半頃、サムは子どもの入浴見守り。

サムとブレンダは子どもの入浴後のケアを行う。

ブレンダがチーズサンドウィッチを作り子ども達に食べさせる。

サムとブレンダが子どもの歯磨きの見守り

子どもの寝かせつけは長男はサムが、次男はブレンダが行う。

祖父が中華料理の持ち帰りを買いに出かける。支払いはブレンダ夫婦と折半する。

19時過ぎ大人たちの夕食。それぞれ、ソファやカウチに腰掛け、テレビを見たり、パソコンを使ったりしながら好きなようにしている。

23:30 祖母が帰宅

・10日目(11月28日 月曜日)

6時過ぎにサムと次男が起き、サムが次男にミルクを飲ませ、おむつを替える。祖父が7時に起きてきたので次男を託し、シャワーを浴びている間に長男とブレンダも起床、サムは7時半前に仕事に出かける。

祖父がブレンダと子ども達にトーストと飲み物を用意し、ブレンダが子ども達に与えながら、本人も朝食を済ませる。

8時頃、祖母が起床、朝食を摂る。今日は祖母の仕事は休み

8時半前 祖父が出勤。

9時過ぎ、祖母が洗濯物を干し、トイレや洗面台、風呂場など水回りの掃除をする。

掃除後、ブレンダが入浴し、祖母が子どもたちを連れ、庭の手入れをしたりするため外へ。

30分ほどして、子どもにモーニングティーにバイキングを与える。

ブレンダは、自分のスキンケアをし、インターネットを見たり、本を読んだりしている。祖母も一緒にソファで寛ぎ、子ども達は子ども達で遊んでいる。

12時頃、子どもにバナナサンドウィッチを祖母が作り、食べさせる。

昼食後、祖母が朝食分もまとめて食器洗い

祖母とブレンダ子ども達のおむつ交換。

長男は祖母が、次男はブレンダが寝かしつける。昼寝の間、ブレンダも自分のベッドルームで読書。祖母はベジショップに野菜の買い出しに出かける。

14時過ぎ、昼寝から起きてきた子ども達のおむつをブレンダが代える。

14時半ごろ買い物から祖母が帰宅し、子ども達に本を読んであげたり、遊ぶ。ブレンダも一緒にいる。

祖母は並行して、洗濯物を取り入れたり、キッチンの整理をする。

16時過ぎ、祖母が夕食の準備を始める。

17時前 観察終了

6. 調査の分析・考察

ブレンダの家族への参与観察調査から、多世代家族がもちうる開放型家族システムの要素を抽出していく。ブレンダの同居後の家族を家族システム論の立場から分析すると以下の6点が開放型家族システムの要素として浮かび上がってくる。①複合的であること、②開放的であること、③規範に縛られていないこと、④家族内で役割が固定化していないこと、⑤世代間交流による双方向な関係性があること、⑥地域でサポーターネットワークを構築していること、である。

①家族が複合的であるということ

ブレンダの家族は子育てを通じて一家が協力していることが参与観察からもわかる。10日間の観察に記録されていないが、じつは祖母はNZでの合法薬物を40代の頃より摂取しており、家に祖父だけであると祖父の目の届かないところで薬物を摂取し、ときには酩酊状態なこともあり、救急車で運ばれたこともあった。しかし、ブレンダ一家との同居以降、祖母の薬物摂取の頻度や量が明らかに減ったという(長男の妻談)。このことから、この

一家は子育てのみならず、あらゆる面で相互に影響し合っており、それが全体のポジティブなフィードバックへとつながっている。ブレンダ・サムにとっても祖父母のもつ育児に関する知識を学び、孫には生活や遊びを通じて祖父母の生活の知恵を学ぶ機会を提供することになっている。

②開放的であるということ

閉鎖的な家族システムについて、カンターとレアは「固定的な空間、規則的な時間、定常的なエネルギー」を挙げている。閉鎖的な家族は地域と家族とを分け、家庭内においてもそれぞれ母親役割、父親役割と選別的になりがちであり、それぞれの役割がその役割範囲のなかで安定的に秩序立てて行われる。そのため、閉鎖的な家族の中には外部者は立ち入りにくく、プライバシーが重んじられ、第三者の目が届かないことにもつながり、家庭は虐待や暴力などの温床ともなってきた。ブレンダも同居以前はサムに対して暴力行為やモラルハラスメントを日常的に行っていたが、同居以前の核家族であると第三者の目も届かず、ブレンダを注意する者もいない。しかし、同居後はブレンダからの暴力もなくなり、サムに対して適切な距離感を持って相対することができるようになった。

③規範に縛れていないこと

エネルギーの方向性の観点から分析すると、同居前の核家族のときはブレンダの視線はサムに対して、子ども達に対してのみ注がれることになり、相手のあら探しにつながりかねない。同居後は、この10日間の観察記録からもわかるように、それぞれが秩序だてていなく、食後などの自由時間に個々に自由に過ごしており、時間の制約なく、可変的な時間を過ごしている。またそれぞれが同じ物を一斉に食卓を囲んで食べているのではなく、個々にチーズやバナナ、クラッカーを食べたり、ワインを飲んだり、自由に飲食している様子がうかがえる。中華の持ちかえりを買ったときもブレンダの家族と祖父母は折半しており、年長者がおごるという規範はない。日本ではテーブルを囲んで秩序立てて一斉に同じ食事を摂ることが「家族らしさ」であるかのようにとらえられがちであるが、ブレンダの家族をみると、行動や時間はともにしていなくても家族としての機能は保っていることがわかる。

④家族内で役割が固定化していないこと

性別役割分業の定着した家族だと、「男はソトで仕事、女はウチで家事・育児」という言葉に表されるように、家での家事・育児は母親が主に担当することになってしまい、家族内で役割が固定化しやすい。しかしブレンダの同居後の観察記録を見ると、だれがいつ、どの役割をするかが定まっておらず、そのとき手の空いたものが行っている。日本で見受けられる性別役割分業の定着した家族では、どんなに洗い物が多くても、洗い物は家事なので母親が1人で担当していたり、2時間おきに乳児が泣く場合にも、24時間育児は母親が行って当然とする風潮がある。そこには規範が付随して生じ、「母親ならば子どもは無条件に愛するものだ」という感情にかかる規範が生じてきた。母親が24時間育児している状況にあったとしても、それは「母親の幸せ」とすり替えられてきた。このような閉鎖的な状況では、子どもに向けられるエネルギーも負のエネルギーに転じかねない。

⑤世代間交流による双方向的な関係性

同居後のブレンダの家族のように開放的な家族システムであれば、空の巣症候群になって合法薬物に手を出していた祖母も、子育てに参加することで、自分の祖父母の役割を得、その存在意義が認められることで薬物依存から脱しつつある。引きこもりがちであった祖父もブレンダが外出を嫌うため、家にずっといる孫を心配し、積極的に外に連れ出すようになった。

⑥地域でサポーターネットワークが構築できていること

孫と同居後は、祖父母は、孫の保育所までの送り迎えと両親が所用ででかける場合の育児の全てを担当しているが、同居して一ヶ月半ほど経った頃に近所の誘いを受け、コミュニティの孫育てネットワーク、コミュニティガーデンに参加するようになった。現在は地域で孫のベビーシッターをしあったり、近所中で孫育てのルーティンが組まれるようになった。地域で孫育てをする高齢者が増え、そのニーズによって孫育てを支援するネットワークができ始めた。

7. おわりに

世代間交流とはそれぞれの世代の異質性を認め合い、共存していく試みである。世代間交流を促進するための土壌作りには、世代で価値観は異なることもあり、だからこそお互いに多様な価値観の存在を認め、「同質化を強いる風潮」に対して懐疑的であらねばならない。これまで我が国で学校や部活動、職場などあらゆる場面で重視されてきた「集団主義」や「同調主義」が異質性への排他思考につながることを意識し、多世代での生活様式をいかに認め合い、尊重し合っていくかが多世代開放型の家族システムをつくっていく手がかりとなるのではないだろうか。

謝辞：本研究は、2016年－2018年文部科学省科学研究費助成金基盤研究C「ニュージーランドの虐待児への祖父母による代替養育の実態的調査」（課題番号16K04220，研究代表者：栗山直子）のなかでおこなった調査報告の一部である。

注：カンター・レアの家族システム論では、よりよい家族システムの要素にはつぎの5つがあるという。①「組織的に複合的である」、②「開放的システムである」、③「適応的である」、④「情報処理のシステムである」、⑤「処理される情報とは、距離調節のシステムである」（カンター・レア，1988,p36-39）。

引用参考文献

1. D. カンター・W. レア ,1988,『家族の内側』垣内出版 .
2. The Department of Social welfare (1988) “*Puteo-te-ata-tu*” *The report of the ministerial advisory committee on s Maori perspective* .
3. Danny Keenan, “*Puteo-te-ata-tu-a brief and reflection*” , Social work review.
4. 資生堂社会福祉事業財団報告、2009, (http://www.zaidan.shiseido.co.jp/activity/carriers/training/pdf/vol_34.pdf)
5. Connolly, Marie, McKenzie, Margaret、高橋・渋谷・森沢 (1999) 『ファミリーグループカンファレンス』有斐閣
6. Margaret K. Nelson (2014) “*Whither Fictive-kin? or Whats in a Name?*” , journal of Family issues, vol35(2) , p201-222
7. Jill, Worrall (2017) *Grandparents and Whanau extended families*, GrandParents raising GrandChildren Trust Published.